

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300035
法人名	社会福祉法人 正和会
事業所名	九島グループホームやすらぎ
所在地	〒798-0098 愛媛県宇和島市蛤95番地3
自己評価作成日	平成27年 7月 23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームは市内から目と鼻の先にある九島という漁業とみかん、レモン、キウイ等の柑橘類の栽培が盛んな島にあります。当施設の周囲はみかん畑で、目の前はすぐ海というのどかな風景の中にあり、天気の良い日は正面の鬼ヶ城から美しい朝日が昇ってきます。島の方々は温かく、ホームのことを気にかけてくれています。ホームの特徴は入居者だけでなく職員もほとんどが島の方で、昔からの馴染みの関係ができています。また、平成28年3月の九島架橋が完成し、交通の便も改善されます。これからも「笑顔と真心でやすらぎを」という基本理念のもとで、いつも利用者と職員の笑顔が絶えない、地域からも愛される空間を創っていきたくと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

敬老会や公民館まつり等の地域行事や、地域ぐるみで開催する小学校の運動会に参加できるよう支援している。年4～5回の幼稚園児の訪問やカラオケ、日舞、民舞等のボランティアと交流する機会もある。さらに、年2～3回、地域の方等を招き食事を催しており、利用者が地域の方とふれ合う機会を積極的に作っている。秋祭りには子供神輿や牛鬼が来て、ご自分でおひねりを用意する方もある。会議は、毎年委員を決めて開催しおり、活動報告やヒヤリハット・事故報告、職員の異動についての報告等を行ってサービスに対する要望や意見をうかがっている。年度末には、委員の交代等もあるため夜間に会議を行ない、職員も参加して懇親会を行なっている。委員には事業所行事にも参加してもらっており、事業所や利用者様の様子をさらに知ってもらい、サービスへの意見や要望を出しやすいよう工夫している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームやすらぎ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

舟田 達也

評価完了日

平成27年 7月 23日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の基本理念に基づき、グループホームやすらぎ独自の事業所の年間目標を作成している。	
			(外部評価) 「笑顔とまごころでやすらぎを」という理念をもとに、職員で話し合い、年間目標を5項目つくり、玄関に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会への加入、地域行事(秋祭り、運動会、公民館祭り等)への参加を通じ、地域との連携に努めている。地域の幼稚園、地域のボランティアの方々との交流会の開催している。また、こちらからも事業所の行事がある際はご案内をしている。	
			(外部評価) 敬老会や公民館まつり等の地域行事や、地域ぐるみで開催する小学校の運動会に参加できるよう支援している。年4~5回の幼稚園児の訪問やカラオケ、日舞、民舞等のボランティアと交流する機会もある。さらに、年2~3回、地域の方等を招き食事を催しており、利用者が地域の方とふれ合う機会を積極的に作っている。秋祭りには子供神輿や牛鬼が来て、ご自分でおひねりを用意する方もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 他事業所や地域包括支援センターと協力し、認知症サポーター講座を開催。 また、電話や訪問等による相談にその都度応じている。 そして、地域に出て行くことで実際に入居者に接している姿を見てもらう。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議で、事業所の取り組みや入居者の生活状況を報告する機会を持ち、地域からの事業所に対するご意見等を頂いたり、事業所からも地域の方に協力をお願いしたりしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、毎年委員を決めて開催しており、活動報告やヒヤリハット・事故報告、職員の異動についての報告等を行ってサービスに対する要望や意見をうかがっている。年度末には、委員の交代等もあるため夜間に会議を行ない、職員も参加して懇親会を行なっている。委員には事業所行事にも参加してもらっており、事業所や利用者の様子をさらに知ってもらい、サービスへの意見や要望を出しやすいよう工夫している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に市担当者に参加して頂き情報交換を行っている。また、地域包括支援センター主催の研修会への参加、協力を行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時に市の担当者の方が参加して、介護保険についての説明や食中毒についての注意喚起、口腔ケアや誤嚥性肺炎の予防について話してくれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人全体で身体拘束禁止の研修を受け、意識付けを行っている。日中、玄関の鍵は施錠していない。</p> <p>(外部評価) 玄関や中からと、外からも利用できるトイレのドアにはチャイムを付けている。又、居室から直接外に出られるところには、利用者の状態によってチャイムを付けている。ひとりで出かける利用者の散歩ルートを職員は把握しており、あとからそっと見守りながら対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人全体で高齢者虐待防止に関する研修の機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修で学ぶ機会を設けているが、実際にこの制度に触れる機会が少なく、職員全体として理解度が低いように思われる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前に、本人及び家族と十分に話しあう機会を持ち、説明を行い、納得の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関先に意見箱を設置している。家族の面会時、ご家族宅への訪問時や手紙、電話等で入居者の生活状況をお伝えし、入居者、家族からご意見を伺っている。意見、要望等を運営推進会議や職員会にて話し合い、意見を求めるようにしている。 (外部評価) 年4回の「やすらぎ新聞」、2ヶ月ごとの「九島だより」を発行し、ご家族に送付している。又、手紙や電話で体調を報告してサービスへの意見や要望を聞いたり、ご家族の事情や内容によっては管理者が直接ご自宅に訪問してうかがうようなケースもある。	管理者は、現在の報告や連絡手段でご家族の意見や要望をどのくらい聞くことができるか心配に思う点もあるようだ。来年3月に島まで橋がつくことを踏まえて、家族会の設置を検討している。今後さらに、ご家族とともに利用者の暮らしを支えていけるような取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に1回程度の職員会を開催している。スタッフの意見を聞く場を設けている。 月に2回、法人全体の役職会議が開催されており、その際各部署の運営状況を報告している。	
			(外部評価)	
			学習・清掃・行事等の委員会を設置し、それぞれの職員が責任を持って活動する仕組みを作っている。職員は、月1回の職員会時に意見を出せるようになっており、又、気づいたことや意見は、日々の中でその都度話し合うようにしている。 月1回、職員1～2名が外部・法人研修に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			有資格者に対する処遇改善を図り、職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			年間の研修計画を作成し、研修への参加の機会をできるだけ確保している。また、研修案内を職員に開示している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			圏内のグループホーム交流会、地域密着型サービス協会を通じて、他事業所との交流の機会を設けている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用相談があれば、ご本人に会い、その方の現状を把握し、ご本人の意向や気持ちの理解に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用相談のときに、ご家族の困っている状況を伺い、不安の解消に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用相談時にご本人、ご家族の話を伺い、当GHを利用するより良い方法があれば他事業所への紹介等を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者と共に生活する中で役割を持っていただけるよう支援し、その中で支えあう関係を構築できるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と連絡を取り合い、共にご本人を支えていけるよう努めている。また、定期的な外泊や随時の外出の支援をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 島内の馴染みの場所での買い物や、島内の散歩をしながら島内の方と会話をする機会を持っている。また、馴染みの方々が来やすいように要望があればスタッフが送迎をしている。	
			(外部評価) 利用者が同級生と交流を続けられるよう、職員が同級生宅まで送迎したり、又、同級生の方が事業所近くに来る用事がある時に立ち寄ってもらえるよう支援している。友人が併設デイサービスに通ってくる方には、お互い行き来して交流できるようデイの職員と連携して支援している。妹さん等から会えるよう自宅までの送迎をお願いされることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いの関係の把握に努め、その都度状況に応じてテーブルや椅子の配置を変えたり、スタッフが関りの支援をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了したり、入院等で中断したりする際は、ご家族やご本人と今後の生活について話し合い、その都度、相談に応じている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の希望や意向を伺いながら、できる限り応えている。対応が困難な場合はご本人やご家族に説明をしている。意思表示の困難な方については、毎日の生活の中でコミュニケーションを通じて気持ちを汲み取ることができるよう、情報の共有に努めている。 (外部評価) 入居時に生活歴や職歴等記入する「面接調査表」を記入し、利用者の希望や意向を「ケアチェック表」で把握するようにしている。毎日の生活の中でコミュニケーションを取りながら、希望や意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前の面談の際にご家族やご本人、サービスを利用していた事業所等からお話を伺い、把握に努めている。利用後はご本人との関わりの中で、情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者個人の毎日の生活リズム、体調(熱、脈拍、血圧)や排泄パターンを把握し、各スタッフで情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的にかかりつけ医を受診している。必要に応じて家族にも同伴してもらい、今後の事について話をしている。3ヶ月に1回職員内の担当者会議にて計画の検討、見直しを行っている。島外に住んでいる家族については、電話や手紙にて意向の確認をしたり、プランの説明をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画書にしたがってチェック表を付けて、3ヶ月ごとの計画見直しにつなげている。職員でカンファレンスを行い、ご家族には電話や手紙等も用いて意見や要望を聞き計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護経過記録及び日誌、引継ぎノート、ホワイトボード等を利用し情報の共有に努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人や家族の希望にはできる限り応えることができるよう、柔軟な対応を心がけている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域との関り(公民館、幼稚園行事)の中で地域資源の把握に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 島内の診療所にスタッフが付き添い、定期的に受診している。入居者さんの状態によっては往診をしてもらうこともある。本人、家族の意向を確認し、島外の病院を受診する支援を行っている。必要に応じ、家族に相談し、付き添いをお願いすることもある。</p> <p>(外部評価) いざという時に対応してもらえるように入居時には、なるべく島内診療所に変更してもらっており、月1回、職員が付き添い受診支援している。緊急時には往診を受けている。専門医には、乗船して受診に行くということもあり、寒い時期(12月～2月)や暑い8月は、相談の上、管理者が利用者の状態を報告し薬を出してもらうようにしている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 当グループホームの担当看護師が定期的に生活状況、身体状況の確認をしている。また、診療所の看護師さんにも相談に乗ってもらいながら、入居者の方々の健康管理を行っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入居者の入院時は医療機関に情報提供を行ったり、適宜の訪問、連絡をして情報交換を行っている。入退院時以外では、病院の連携室から入居依頼の相談に応じている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居の際、重度化に向けた指針、看取りの指針について、家族への説明を行っている。また、ご本人の病状の進行の際には家族に事業所でできることを説明し、意向を確認している。また、必要に応じてかかりつけ医より家族に病状の説明をってもらうこともある。</p> <p>(外部評価) 入居時に看取りの指針をご家族に説明している。事業所ではこれまでに2名の利用者の看取りを支援しており、現在は1名、看取りまでの支援を希望する方がいる。「家で最期を」と思っておられる利用者が多く、「病院よりはホームで」と思っておられる方もある。管理者は、職員の中には、「看取り支援はこわい」と思っていたり、不安に思う人もあるのではないかと感じている。支援について、ご家族と一緒に勉強するような機会も作ってみてはどうだろうか。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な研修を受けている。随時、看護スタッフにアドバイスを受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 緊急事態に対するマニュアル、緊急連絡網を作成している。近隣の方や消防団の方々の連絡先を伺い、緊急連絡網を作成している。年2回の避難訓練に地元の消防団の方にも来てもらっている。	島に橋がつくことや、利用者の状態、職員の顔ぶれ等、環境変化があるごとに、災害対策についても具体的に取り組みの確認や訓練を実施していかれてほしい。又、立地条件等も踏まえて、地域ぐるみで地震や津波等に備えた取り組みに力を入れてほしい。
			(外部評価) 年2回、火災想定での避難訓練を実施し、地元消防団に施設の中を見てもらい、「津波時には車に乗ったらいける所まで高い所に逃げ、途中で止まらないこと」と注意事項を教えた。訓練は、夜間を想定して実施しているが、夜勤職員のみでの対応の問題点や、一度外に避難した利用者が中に入って行ったような現状もあり、課題が残ったようだ。夜勤時緊急用として、リュックにチョコ、水、黒砂糖等を入れて持ち出せるよう用意しており、避難訓練時ごとに交換、確認を行っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者、スタッフも島内の方なので、事業所内外での個人情報の取り扱いについては職員に周知している。ケアの場面において虐待研修で学んだことを参考にし、言葉かけについても注意を払っている。	
			(外部評価) 利用者のレベルに応じて、ご自分のことはご自身が行えるような支援に努めている。昼食後は、自室でテレビを観たり、横になったりしてマイペースで過ごしている様子が見られた。職員が利用者の居室に入る時には、ノックや声掛けを行い、ご本人に確認している。失禁がみられる場合は、「椅子が濡れてみたいね」と声をかけて居室で着替えられるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中での関わりを通じて、入居者の好み、嗜好を把握し、自己決定を促している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の生活の基本的な流れはあるが、入居者の希望や状況に合わせてできる限り対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族とも相談しながら、ご本人の好みに合わせた身だしなみができるよう支援している。 装飾品(ビーズ等)の作成、メガネのメンテナンス、美容室での整髪等を支援している。 また、本人の嗜好品の購入支援も行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎月、栄養士の方が2名来られて、料理教室を実施している。 畑での作物で漬物を作ったり、余った食材でおやつを作ったりして、においを感じながら作る楽しさを味わえるよう支援している。	
			(外部評価) 食事は業者に委託しており、ご飯は事業所で職員が炊き、準備している。お茶碗は利用者個々に用意した好みの物を使用している。利用者が調理にかかわる機会として、月3~4回程度、委託業者や法人の栄養士の協力のもと「料理教室」を行っている。事業所の畑でとれたトウモロコシや枝豆等を収穫して、季節の味を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の好みや嚥下状態、病状に合わせた食事の提供に努めている。(糖分、カロリー制限)水分補給も同様に、個々の好みや状態に合わせて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを実施し、誤嚥の予防、口腔清潔の保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 入居者の日々の排泄状況、パターンを把握し、トイレの声かけのタイミングを工夫したり、本人に合った尿取りパットの使用の検討、工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 「食事前のトイレ誘導を基準」に、24時間排泄チェック表を付けて利用者ごとのパターンを把握し、声かけて、トイレで排泄できるよう支援している。尿もれがみられるが紙パンツを嫌がる利用者には、職員があらかじめ下着に尿とりパットを付けておくような場合もある。おむつの状態で入居した利用者には、まずは居室にポータブルトイレを設置して、時間ごとに座れるよう取り組むことで、排泄状況が改善したような事例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 水分摂取量の把握に努めている。個々の好みに応じて(ジュース、スポーツ飲料)摂取を促している。お通じの状況を把握し、便秘時はかかりつけ医から処方されている下剤で対応している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入居者個々の意向は確認しているが、時間帯は設定させてもらっている。夏場は畑作業等で汗をかいた時や、排泄の失敗等で汚れたときは、随時シャワーを浴びている。</p> <p>(外部評価) 利用者のお気に入りのシャンプー、リンスを用意して、個々に週3回入浴できるように支援している。利用者が入浴を嫌がる場合は、振り替えたり、入浴につながるよう声かけ等を工夫して支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 入居者の状況に合わせ畳を使用したり、不安がる入居者の部屋は自宅で行っていたように雨戸を閉める等の工夫をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の用法、用量が変更される時は、薬の作用、副作用について全スタッフで共有している。 医師から指示のあった頓服薬を服用した時は、服薬後経過に注意を払っている。 処方箋を個々のファイルに綴じている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ビーズアクセサリ-の作成、広告紙を利用したゴミ箱の作成、併施設利用者との交流等、ご本人の意向や趣味と実益に沿った支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望を募り、島内の散策、ドライブに出かけたり、家族の理解、協力を得ながら、島外への外出の支援を行っている。	
			(外部評価) 市内の病院受診時に合わせてご家族に声かけ、一緒に食事や買い物をするこもある。島内を一周するドライブに出かけたり、周辺を散歩に行くこもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望や状況に応じて、ご家族と相談し、ご自身でお金を所持できるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族、ご本人の希望に応じて、手紙や電話のやり取りを支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 室内の飾り付けを季節ごと(正月、ひな祭り、端午の節句等)に変更している。 テラス前の花壇には季節の草花を植えている。 共用スペースは混乱を招かないよう、案内表示を掲示している。	
			(外部評価) 食堂の掃き出し窓から海に向かってテラスがあり、椅子を配置している。テラス前の花壇には、季節の花が植えてあり、居室前の畑には、夏野菜が育っていた。廊下や食堂には、公民館祭りに出品した利用者のちぎり絵作品を飾ったり、外出時や行事時の利用者の写真を掲示していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テラスに長椅子、テーブルを置き外でゆっくり過ごせるよう工夫している。共有空間が狭いため、机、椅子の配置を工夫して、他の方が視界に入りにくいようにしている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できる限り、自分の使い慣れた物を持参してもらっている。 (テレビ、イス、冷蔵庫等)また、家族や自分の好きな物を飾り付けている。	
			(外部評価) 海側の居室は掃き出し窓になっており、直接外に出ることができる。トイレがある居室が3部屋あり、利用者の状態等も踏まえて居室を決めている。ベッド、クローゼット、洗面台、エアコンは備え付けてあり、布団、テレビや冷蔵庫、ご主人の位牌を持ってこられている方もある。手作りの小物入れを持参されていたり、お好きなスポーツ選手の写真を飾っている方もあった。職員が撮った写真は、貼る位置を利用者と相談している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 日課の作業を行っている動線は常に整理整頓を行い障害物を無くすことで、安全に作業ができるよう配慮している。自分の部屋で洗濯ものが干したい方のために部屋に衣類掛けを設置している。	
			(外部評価)	